

MASCHENKA

解説・物語

ブルースト以降、郷愁と追憶は近代西欧文学の大きな主題となっている。サリンジャー、フィッツジェラルド、そしてナボコフはこの流れの中の最高峰の作家といえるのではないだろうか。

この映画はヘロシア亡命貴族のアメリカ作家「ナボコフの代表作といえは「ロリータ」であるが、彼の作品に繰り返しみられる「過去への追憶や初恋の少女のイメージ」は、むしろこの「マーシエンカ」の中に率直に表われている。

一九二四年、ベルリン。

マーシエンカ

プロフィール

●主人公ガーニンを演じているのは「アナザ・カントリー」の美少年ハーコート役以降、注目を集めているケアリー・エルウィズ。ユゴスラビア人を両親にロンドンに生まれた。このことは東欧の感性を表現するのに、まさにうってつけの配役といえよう。

●ガーニンの初恋のひと、マーシエンカを演じるイリーナ・ブルックは、世界的演出家ヒーター・ブルックと、女優ナターシャ・パリーの娘である。彼女もまた祖父母のうちの三人がロシア系である。

●監督はジョン・ゴールドシュミット。彼は

古いペンション(ドムン)には、ロシア移民の若者ガーニンが住んでいる。彼は特権を与えられたロシア上流階級の出であったが、自由主義者であった政治家の父が革命時に射殺されたため、この地に逃げてきたのである。

過去の記憶と郷愁に悩まされながら、孤独で退屈な日々を送っていた。

だが、ある日、ガーニンにとってこれら全てが変わる日がきた。同宿の隣人が彼に、妻の写真を見せたのだ。

その女性こそはガーニンの初恋の人であり、彼の人生唯一の恋人、マーシエンカであった。

深い眠りから不意に起こされた者のように、ガーニンは、遠いロシアでの初恋を心に再び蘇らせていく。初めての口づけ、初めての愛

イギリス人であるが、チェコで暮らした経験を持ち、二つの国に引き裂かれた亡命者の生活や心理には、より精通している。

●脚本は「ジョンとメリー」のジョン・モーター。

●撮影を「ベルリンは夜」の新鋭ヴオルフガング・トロイ。ベルリン、フィンランド、パリで撮影されたこの美しい映像は高い評価を受けている。

●衣装は「マリア・ブラウンの結婚」など一連のフラスピンダー作品を手掛けたバルバラ・バウム。一九二〇年代のオール・ヌーボー調のロマンチックな衣装が美しい。

●ヤン・シュルバッハの美術もみどころである。

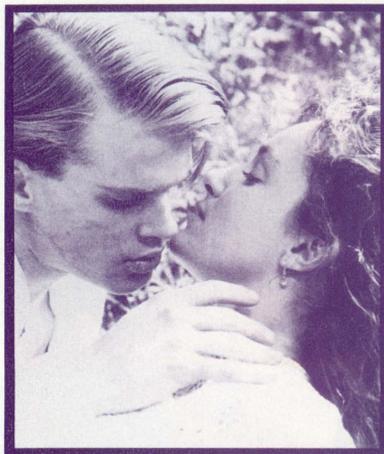
の感動、秘密の逢引き、つかのまの優しさ、そしてあの短い夏、彼の心を一杯に満たした心の昂まり……。彼はマーシエンカの来訪が、彼の人生に新たな光を与えてくれるに違いないと信じた。

それはベルリンでの現実生活とは対照的に、ロマンチックで甘い。

追憶の中にもみ存在するこの過去の世界と、現実のベルリンでの苦しい生活とが交錯して、ガーニンの清冽なる初恋の記憶はとどまることを知らない。

それは彼の人生の中で、もっとも幸せな四日間だった……。

1987年/イギリス映画(仏・西独・英合作)/カラー/103分



●スタッフ
監督……ジョン・ゴールドシュミット
脚本……ジョン・モーター
原作……ウラジミール・ナボコフ
撮影……ウォルフガング・トロイBVK
音楽……ニコラウス・グロウナ
編集……ターニャ・シュミットバウアー
衣装……バルバラ・バウム
美術……ヤン・シュルバッハ
製作総指揮……マンフレット・ハイト
製作……ヘルベルト・G・クロイバー
……フリッツ・ブッテンシュテット

●キャスト
ガーニン……ケアリー・エルウィズ
マーシエンカ……イリーナ・ブルック
リリー……ズニー・メレイ
アルフォロフ……ジョナサン・コイ
ポドチャーギン……フレディ・ジョーンズ
ガーニンの父親……マイケル・ゴフ
コリン……ジャンクロード・ブリアリ
クララ……レナ・シュトルツェ
ドルン夫人……エファ・リザ
ヤーシャ……ヴェルノン・ドブチエフ
アレック……リヒャルト・トマス・ファイナー

12月12日 [土]より 2館同時 新春ロードショー

●特別鑑賞券1200円(当日一般1500円・学生1300円)絶賛発売中

東口伊勢丹新館隣

テアトル新宿 (352) 1846

連日 11:10 1:10 3:10 5:10 7:10

六本木・俳優座劇場内

俳優座シネマテン (401) 4073

連日 12/13、27、1/10、15、17 夕5:30 7:30 夜10:00
1/11-14 昼12:00 2:00 夜10:00

●12/29-1/5は休映